

令和2年度

# 事業報告

## 報告概要

2年度は「安心・安全な法人運営」「地域共生社会の実現」「福祉文化の構築」「施設の充実」を事業の4本柱として運営にあたったが、新型コロナウイルス感染拡大の中でいかにして安心・安全を確保するかが最重要課題となった。

職員、利用者とも感染者を出さないために消毒、マスク、フェースシールド、外部との接触制限、施設内の3密防止、職員のプライベート行動指導、本部一施設間や施設一施設間の人的移動制限など、さまざまな対策をとった。それでも能勢町にある障害者支援施設「第2三恵園」で11月末、クラスターの発生が確認された。3年1月4日の終息までに利用者22名、職員4名が感染し、コロナウイルス由来の死亡2名、長期療養者1名という結果となった。その間、大阪府の職員応援スキームにのっとり府内の他法人から協力をもらい、終息までの期間を支えてもらった。また、地元産業医の献身的な指導のもと、発生初期のゾーニングなど感染拡大防止にあたることができた。クラスター発生を想定したマニュアルを作成してはいたが、いざ実際に発生してみると、マニュアル通りにいかないことが多く、さまざまな方面からの支援のありがたさを痛感させられた。二度とクラスターを発生させないため、感染防止のさらなる強化を図っている。

年度内に策定する予定だった事業継続計画（BCP）はクラスター対策などに忙殺され、実現できなかった。3年度内には策定する予定。

「地域共生社会」の実現に向けた取り組みとして、大阪市や大阪市社会福祉協議会が進める「地域で子どもを支えるネットワーク事業」に2年度も参画した。また、平成30年6月の大阪北部地震以来、営業を休止していた池田市立くすのき学園運営のうどん店「くすのき庵」が3年3月17日に移転・再開したことで、うどんを通しての地域交流が再び始まっている。

利用者の生活環境、作業環境向上に向け、2年度の設備投資として10月1日、就労継続支援事業所「すみれ工房」（通所）の移転・新施設オープンが完了した。また、老朽化にともなう池田市の障害者支援施設「池田三恵園」と、隣接する生活介護事業所「こすもす」の空調機大規模更新工事も行った。

事業団のメインの公益事業である第46回「産経市民の社会福祉賞」の表彰式は、出席者数を削減して11月26日、開催した。受賞者は「ゆめ伴プロジェクト in 門真実行委員会」「団地の寺子屋」「草津市精神障害者家族会 ひまわりの会」の3団体だった。

災害救援金募集の活動は、九州など各地で発生した豪雨災害の被災者を対象に7～8月の2カ月間に渡って実施。約1億円が寄せられ、特に被害の大きかった熊本、福岡、大分の3県に配分した。東日本大震災の救援金募集は2年度も継続し、岩手、宮城、福島で被災した子供たちを支援する基金に計390万円を寄託した。

明美ちゃん基金によるミャンマープロジェクトは2年間の延長が決定したが、コロナ禍による医師の渡航禁止やクーデターにより、渡航治療ができない状態となった。現地の強い要望と、まだまだ多数存在する患者を救うために3年度中の再開に向け準備を進める。心臓移植患者に対して高額医療費の一時立替えや術後療養費を支援する事業は、コロナ禍で臓器の提供者が極端に減っていることや、移植件数自体が減っていることで申請は3件にとどまった。

## (1) 事業団本部の事業概要

### 本部

#### ■産経市民の社会福祉賞

第46回「産経市民の社会福祉賞」の表彰式を11月26日、大阪市北区の新阪急ホテルで開き、令和2年度受賞の3団体に表彰状と副賞を贈った。式には約50人が出席。選考委員会の産経新聞大阪本社編集局の山上直子編集委員が選考委員6名を代表して選考経過を報告し、受賞者が活動報告をした。コロナ禍で例年よりも参加者を減らすなどの対応策をしての開催だった。

受賞したのは、「ゆめ伴プロジェクト in 門真実行委員会」（大阪府門真市：角脇知佳代表・活動歴4年、会員数15人）、「団地の寺子屋」（大阪市城東区：松井宏悦代表・活動歴6年、会員数27人）、「草津市精神障害者家族会 ひまわりの会」（滋賀県草津市：活動歴30年、会員数31人）の3団体。ゆめ伴プロジェクトは、認知症の人や地域住民が店員を務めるカフェや歌い手となるコンサートを開催して認知症の人や家族の夢の実現に向けサポートしている。団地の寺子屋は、団地の集会所を拠点に週1回の「あたまの体操」「傾聴教室」「介護相談会」のプログラム、「カラオケ倶楽部」「川柳倶楽部」「トランプ倶楽部」などの趣味の活動や「子育てサロン」を実施し、地域住民の居場所となるよう取り組んでいる。ひまわりの会は、精神障害者やその家族が悩みを分かち合い励まし支え合うことで厳しい環境を克服することを目指し活動している。

#### ■災害救援金募集と寄託

九州など各地で発生した豪雨災害で被災した人たちを支援するため、7月7日、産経新聞社などと合同で救援金受付窓口を立ち上げた。8月末までの募集期間に4442件、1億706万5456円が寄せられ、特に被害の大きかった熊本、福岡、大分の3県に住宅被害の件数等に応じて配分した。東日本大震災の救援金募集は令和2年度も継続し、3年3月、第14次配分として「いわての学び希望基金」「みやぎ子ども育英募金」「ふくしま子ども寄附金」に130万円ずつ計390万円を寄託した。これにより同震災関連の寄託総額は10億8210万円となった。

#### ■産経はばたけアート公募展

障害のある人たちの芸術活動支援を目的に産経新聞社、大阪産経連合会とともに開催した「産経はばたけアート公募展2020」では、全国から158点の応募があり、審査会で選ばれた18点（大賞1点、優秀賞4点、佳作13点）の作品を9月12～13日にブリーゼブリーゼ1階メディアコートで展示。受賞者には賞状と副賞が贈られた。

#### ■チャリティーコンサート

「帝国ホテルの音楽會」は帝国ホテル大阪（大阪市北区）のチャペルでほぼ毎月開催していたが、2年度についてはコロナ感染症の影響で3年1月1日から3日まで3回のみ開催だった。「名歌繚乱チャリティーコンサート」はホテルエルセラール大阪（大阪市北区）のエルセラールホールで毎月1回（年間12回）開催を予定していたが、やはりコロナ感染症の影響で開催されたのは9月4日、10月7日、11月10日の3回だった。いずれも入場料の一部が社会福祉のために当事業団に寄託された。

#### ■チャリティーイベント

第50回お笑いなにわ祭を7月4日に予定していたが、コロナ感染の防止を考えて中止とした。3年度

に改めて第 50 回を開催することとし、3 年 10 月 2 日に大阪国際交流センター（大阪市天王寺区）で開催する予定にしている。有名画家の作品を展示即売する第 20 回「チャリティー絵画展」in 高槻はギャラリー大井（大阪市中心区）の協力で 7 月 15 日から 21 日まで高槻阪急 3 階の美術画廊で例年通り 7 日間開催した。収益金の一部は社会福祉のために当事業団に寄託された。

#### ■研究活動

桃山学院大学とタイアップし、産官学連携事業として同大学のアクティブラーニング授業に若手職員 2 人を派遣した。大学生や行政職員と協働しながら地域課題解決への方策を考えることにより、職員の見識を広めた。

### 明美ちゃん基金

#### ■心臓移植患者への適用

基金では心臓移植患者に対して臓器搬送費などの高額医療費の一時立替えや術後療養費として月額 15 万円まで最長 6 カ月（90 万円）の支援を行っている。令和元年度は 10 名を超える申請があり、令和 2 年度はその募集枠を 15 人に拡大して臨んだが申請者は 3 人にとどまった。未曾有のコロナ禍で臓器の提供者が極端に減っており、移植の件数自体が減っていることによるもの。今後もこの傾向は続くと思われる。

（一時立替金総額 894 万円 全額変換済み 生活支援金申請準備中）

#### ■ミャンマープロジェクト

現地よりの強い要望と、まだまだ多数存在する患者を救うために 2 年間の延長を決定し、スタートする予定だった。コロナ禍による病院側の医師の渡航禁止や、ワクチン接種が行われず治療薬もないということで、事務局判断で 9 月の渡航治療を中止。その後ミャンマー国内におけるクーデターにより、2 月の渡航治療も実施不可能な状況となった。安全の確保ができない限り、再開の見通しを立てられない状態である。

## (2) 各施設・事業所の事業概要

### 三恵園（通称・救護三恵園、能勢町大里）

救護施設の存在を知ってもらうために、各福祉事務所や病院を訪れる予定だったが、コロナ禍において近隣の福祉事務所しか訪れることができなかった。また、入所依頼の見学については写真等での見学にきりかえた。その中でも10名が入所に至った。

外部講師を招いての研修は感染予防のため今回は見送った。しかし、一人ひとりが専門性の向上に向けて意識を高め前向きに取り組んだ。

制度の狭間の生活困窮など様々な相談に応じられるよう常に体制は整えていたが、大幅に相談件数は減った。中間就労についても利用がなかった。

### 第2三恵園（能勢町大里）

前年度から定員の減数移行を進めていたが、2年度は定員40名での運営初年度となり、収支のバランスや経常経費の状況を確認し安定的な経営を行うことができた。

利用者の高齢化が進み、70～90代の利用者が過半数を占める状況となり、障害者支援に加え今後の権利擁護・生活保障を踏まえたサポートを行った。後見人選任はもとよりキーパーソンの確認や医療同意の点など明確にし、緊急時の対応へと繋げた。

知的障害・介護技術に関する専門性を向上する図るため、職員会議などの機会を活用して勉強会を開き、理解を深めてもらうよう取り組んだ。

11月末から1月にかけて37日間にわたるコロナクラスターが発生。罹患した利用者22名・職員4名、うちコロナ由来による利用者死亡2名、長期療養への移行1名という大きな被害となった。大阪府の職員応援スキームを利用して大阪府内の他法人から協力をもらい、終息までの期間を支えてもらった。この間の経験を踏まえて一層の感染予防をはかり、府内の福祉施設クラスター発生時の協力も積極的に行いたい。

### 大里荘（能勢町大里）

体験入居を経て、新たに1名がグループホーム生活を開始した。すでに入居している利用者についても地域の一員として、一日でも長くホームで暮らせるように地元の医療機関と大里荘看護師が連携。病気の早期発見、早期通院を徹底し、健康面に配慮しながら支援するとともに、機能訓練にも力を入れた。

介護保険を利用し、入浴や土日の見守りを補助してもらった。訪問看護とも連携し、導尿の処置や終末期の利用者の見守りを支援してもらうように利用者個々の生活を組み立てて支援した。また、コロナ感染症に注意しつつ、制限がある中でも利用者の好きなことや外出も取り入れ、楽しくメリハリのある生活を提供した。

毎週日曜日の午前に軽い朝食を無料で提供している「なごみサロン」は、地域住民の集いの場となっている。非常事態宣言時以外、事業を継続させ、2年度は開設32日で延べ196人が参加した。大里荘に配置している施設CSW、能勢町役場、能勢町社協と2か月に1回の連絡会を開き、様々な地域の課題の共有と解決に取り組んだ。

### **なごみ苑**（能勢町大里）

令和元年度の月平均利用者は、病気や骨折などで入院した人が多く、定員（40人）割れした。このため、2年度は健康面への配慮を重点的に行った。また、祝日開所を行うことにより開所日数を増やし、7回の開所となった。

利用者の高齢化が進んでいることから、個別的支援とグループ支援の両面から、健康増進プログラムのアプローチを進めた。具体的には、歯科検診実施へ向けて近隣歯科医へ協力を要請したほか、職員が喀痰吸引の資格を取得できるよう指導した。今後、医療ケアが増えていくことが十分予想され、喀痰吸引の資格は職員のスキルアップにもつながると思われる。

### **すみれ工房**（能勢町栗栖）

「働く」目標に寄り添い、就職を目指す「就労移行」と、働き続けることを生き甲斐とする「就労継続」に分け、一人ひとりに応じた支援を行うことで、それぞれの目標に向かって取り組むことができた。10月には念願であった新施設への移転が完了し、「就労移行支援事業」を開始した。就職希望者の障害特性に合わせ、新たな関係機関とのチームアプローチを展開した。作業では利用者のニーズに合わせた作業内容の見直しを行い、請負先と交渉を重ねた。重量物や粉塵が出やすい商品から小物の商品中心へと切り替え、作業環境を整えた。これにより、平均工賃1万5000円を維持することができた。

季節の山菜や提携農家からの野菜を仕入れ、取引先店舗への販売を中心に安定した収益に繋げた。新施設に新たに加工室ができたことで、地域の農家から余剰野菜や果物を仕入れて加工した「黒豆きな粉」や「乾燥野菜・果物（しいたけ・ほうれん草・柿・りんご）」などの新商品の開発ができ、好評を得ている。豊中高校能勢分校とのコラボレーション商品である「黒米」は3年目を迎え、定番商品となり注文数も伸びている。商品の販路も従来の店舗だけでなく、地域の店舗からも声をかけていただけるようになった。

地域の独居老人宅の庭の掃除や家の片付けなどの仕事に携わることができた。能勢町内には同様の潜在ニーズが高いことが予測されるため、今後も社会福祉協議会や商工会などと連携をとりながら地域貢献を目的とした活動に繋げていきたい。

### **豊能町立たんぼぼの家**（豊能町ときわ台）

3年3月末をもって運営を終了し、社会福祉法人豊悠福祉会に引き継いだ。平成16年から豊能町の指定管理を受託し、利用者家族や地域の人たちに支えられながらの運営だった。今後も利用者の生活がより豊かになるよう、外部の立場でできる限りの支援をしていく。

### **三恵園**（通称・池田三恵園、池田市中川原町）

自閉症者支援の研修はできなかったが、メールのやり取りで専門家の助言を得ながら本人のスケジュールを見直し、アセスメントに基づいた新たな取り組みを実施した。新規で、内職の仕事や細河コミュニティセンターの清掃の仕事を請け負い、利用者の新たな仕事場と工賃アップに努めた。この結果、全体で前年度比約12万円のアップとなった。細河コミュニティセンターの清掃については、利用されている地域住民から「きれいになった」と感謝の声をかけてもらうことが増えた。コロナ禍の中で地域

住民と関わることがなかなかできなかったため、電話や手紙で状況を確認しながら連絡を取り合った。個人ボランティアさんについても感染対策をとりながら来てもらった。

### **伏尾台ホーム**（池田市中川原町）

アセスメントをとり、利用者本人のニーズを発見し現在のスケジュールの見直しを行った。利用者本人らが次の行動の理解ができるようになったため、落ち着いて生活するようになった。担当職員だけでなく、本人に携わる人達で、自閉症者支援に必要な特性等を確認し、模索しながら全員で取り組むことができた。

トマト、いちご、しいたけ等の家庭菜園を行い、収穫したものを利用し調理実習を行った。また、利用者の誕生日には、本人の好きなメニューを食卓に並べた。外食や交通機関を利用した外出はできなかったが、部屋で楽しく過ごせるように工夫した。

### **こすもす**（池田市中川原町）

池田市内からの利用を含め、他府県の支援学校や相談機関と連携し利用者確保（兵庫県の川西市と猪名川町から各1名が利用）に努めた。結果、令和元年度の平均利用者数18.3名から2年度は20.9名へとアップし、安定した経営に繋がった。

健康で充実した生活を送るために、日々変化する利用者の状態に応じたリハビリや運動プログラムの実践を徹底した。日々の状態変化に素早く対応するために、専門職（医師、看護師、理学療法士、歯科衛生士）と連携し、一人ひとりに適した運動プログラムを個別作成し実施したことで、心身の健康と身体機能の維持に繋がった。利用者の「楽しみ」や「強み」をいかした活動を取り入れ、メリハリのある生活リズム作りを進めた。これまで取り組んできた活動を一步進め、一人ひとりの「役割」や「働く」につなげ、社会参加の機会を広げながら、仕事や生活への意欲や自信につながる支援を行った。

新たな内職作業に関しては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い導入できておらず、自主制作製品は引き続き模索中。これらの事が影響し、年度末に支給する作業奨励金も令和元年度に比べ約1割ダウンの結果となった。

### **池田市立くすのき学園**（池田市五月丘）

就労継続支援B型と生活介護に新園生を迎え、定員45名に対し現員41名になるため事業所ごとの定員を変更して受け入れ態勢を整備した。毎日登園できない利用者には、自宅に電話して保護者との連携を取り、本人の日中の居場所やくすのき学園での役割を明確にし、登園できる環境整備に努めた。また、「選ばれる就労移行支援事業所」になるため、2年間のスケジュールマニュアルを整備した。

安心と安全を最優先に仕事ができる環境を整備するため、一人ひとりきめ細やかなアセスメント、スケジュールの組み立て、評価を行い、将来の見通しややりがいがある活動にレベルアップした。休業していたうどん屋「くすのき庵」を3月に再開。障害の有無にかかわらず、うどんを通して地域の誰もが集える場として多くの人に愛されるお店を目指している。

地域住民と「顔の見える関係づくり」が図れるようあいさつを励行するとともに、門扉横でくすのき学園の菜園で採れた野菜や果実を販売するなど、地域に学園の存在を知ってもらい取り組みをスタートした。

## **ワークスペースさつき**（池田市鉢塚）

不適応行動を繰り返す利用者が安定した状態ですごせるように取り組んだ。利用者の発する言葉や行動から、利用者の意図を推察し本人の行動の理解を深め、粘り強く対応した。その結果、毎日のようにあった他の利用者への他害行動が減少し、さつき滞在中の利用者の全体的な快適さが増した。3年度以降は、現状の安定した状況を維持しながら、働くことを意識した支援の実践を目指す。

コロナウイルス感染症防止の観点から、外部の人との接触を大きく制限したこともあり、利用者が外部の人たちと触れ合う機会は持てなかった。このため、ボランティアのみなさんへ向けて半年に1回、写真などを添えて施設内の様子を発信した。感染症拡大の懸念がなくなれば、従来のように多くの地域の人たちと交流を図りたい。

2年度は緊急事態宣言などにより、企業活動の休止など、未体験の事態が多く起きた。このため、利用者の作業確保のため、新しい作業・取引業者の開拓と、従来の取引業者から別の作業の融通など、作業担当者を中心に収益の確保に奔走した。結果としてここ3年間の作業収益としては10万円余り低い収益となったが、利用者へは前年の作業工賃を下回ることなく支給した。

## **福祉相談くすのき**（池田市中川原町）

池田市・豊能町・能勢町の1市2町から委託を受け、能勢町においては基幹相談支援センターとして相談活動を展開した。当法人がこれまで築き上げてきた実績と信頼性を継承しつつ、真に地域から信頼され、選ばれる相談支援事業所となれるよう、相談員一人ひとりが積極的に研修に参加した。定期的な開催するケース会議の場でも専門家の指導を受け、「相談支援」の質を一層、向上するよう努めた。



### (3) 令和2年度に実施した理事会・評議員会

#### 理事会

2年度は5回開催し全案件可決、承認された。

##### 【第1回】

令和2年6月11日 書面決議

- ◇第1号議案 令和元年度事業報告ならびに決算（案）に関する件
- ◇第2号議案 理事の選任（補充）（案）に関する件
- ◇第3号議案 役員報酬規程改正（案）に関する件

##### 【第2回】

産経新聞社8階会議室で令和2年7月3日 午後1時30分から開催

- ◇第1号議案 理事長の選定の件
- ◇第2号議案 役員報酬（案）に関する件

##### 【第3回】

産経新聞社8階会議室で令和2年11月13日 13時30分から開催

- ◇第1号議案 定款の一部変更（案）に関する件
- ◇第2号議案 役員報酬規程改正（案）に関する件
- ◇第3号議案 経理規程の改正（案）に関する件
- ◇第4号議案 定年後再雇用規程改正（案）に関する件
- ◇第5号議案 第2回評議員会の招集（案）に関する件
- ◇第6号議案 理事の解任（案）に関する件
- ◇第7号議案 事務局長の選任（兼務）（案）に関する件

〈報告事項〉

○理事長業務執行状況（九州豪雨災害救援金を含む）

##### 【第4回】

令和2年12月21日 書面決議

- ◇第1号議案 くすのき学園設備整備積立金取崩し（案）に関する件
- ◇第2号議案 令和3年度池田三恵園大規模改修事業費の福祉医療機構借入申込（案）に関する件
- ◇第3号議案 公印管理規定の改正（案）に関する件

##### 【第5回】

産経新聞社8階会議室で令和3年3月11日 13時30分から開催。

- ◇第1号議案 令和2年度補正予算（案）に関する件
- ◇第2号議案 令和3年度事業計画ならびに予算（案）に関する件
- ◇第3号議案① 豊能町立たんぼぼの家の指定管理の終了（案）に関する件
- ◇第3号議案② 豊能町立たんぼぼの家の移動販売車の無償譲渡（案）に関する件

- ◇第4号議案 諸規定（規程）の改正等（案）に関する件
  - ◇第5号議案 施設管理者人事（案）に関する件
  - ◇第6号議案 役員等賠償責任保険契約締結（案）に関する件
  - ◇第7号議案 令和2年度第3回評議員会開催（案）に関する件
- <報告事項>
- 理事長業務執行状況及び専務理事業務執行状況

## 評議員会

2年度は3回開催し全案件可決、承認された。

### 【第1回】

令和2年6月11日 書面決議

- ◇第1号議案 令和元年度事業報告ならびに決算（案）に関する件
- ◇第2号議案 理事の選任（補充）（案）に関する件
- ◇第3号議案 役員報酬規程改正（案）に関する件

### 【第2回】

令和2年12月14日 書面決議

- ◇第1号議案 定款の一部変更（案）に関する件
- ◇第2号議案 役員報酬規程改正（案）に関する件

<報告事項>

○令和2年11月13日付で片山宣博理事を解任する決議を令和2年度第3回理事会で決議を得るとともに、令和2年11月13日付で事務局長兼企画推進本部長の職にある者が欠けたので専務理事 森脇睦郎が事務局長兼企画推進部長を兼ねる決議を得たことを報告した。

### 【第3回】

令和3年3月25日 書面決議

- ◇第1号議案 令和2年度補正予算（案）に関する件
- ◇第2号議案 令和3年度事業計画ならびに予算（案）に関する件
- ◇第3号議案 理事の解任（案）に関する件